



東京海上ホールディングス

To Be a Good Company

2021年度 第1四半期決算概要

東京海上ホールディングス株式会社
2021年8月6日



2021年度 第1四半期決算概要

● 業績ハイライト

– Executive Summary	3
– 修正純利益	5
– 自然災害の発生状況	6

● 国内損保事業 (TMNF)

– 決算概要	7
– 正味収入保険料	8
– 発生保険金	9
– コンバインド・レシオ	10
– 資産運用等損益	11

● 国内生保事業 (AL)

– 決算概要	12
--------	----

● 海外保険事業

– 正味収入保険料	13
– 事業別利益	15
– 決算概要 (PHLY)	17
– 決算概要 (Delphi)	18
– 決算概要 (TMHCC)	19

参考資料

– 連結純利益	21
– 各種指標の定義	22
– 修正純利益の組替表	24
– 事業別利益の組替表	25

◆資料内にて使用している事業会社の略称は以下の通りです

- TMNF : 東京海上日動火災保険
- AL : 東京海上日動あんしん生命保険
- PHLY : Philadelphia
- TMHCC : Tokio Marine HCC
- TMK : Tokio Marine Kiln

2021年度 第1四半期決算概要

〈ご参考〉

	為替レート (ドル/円)	
	20年度	21年度
6月末レート (国内損保・生保)	107.74円 (20年3月末対比 1.09円高)	110.58円 (21年3月末対比 0.13円高)
3月末レート (海外)	108.83円 (19年12月末対比 0.73円高)	110.71円 (20年12月末対比 7.21円安)

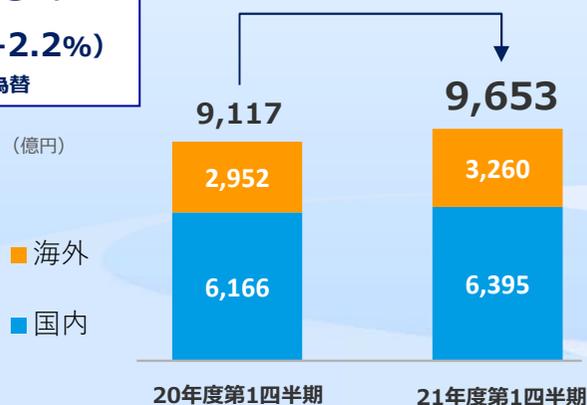
Executive Summary 通期予想対比 (トップライン)

トップライン・ボトムライン共に、国内外で好調 (特に海外利益は1Q計画を大きく上回って進捗。1Hでは更に上振れる見込み)
結果としての修正純利益は1,672億円となり、年初予想対比の進捗率は39.4%と好調に推移

[トップライン]

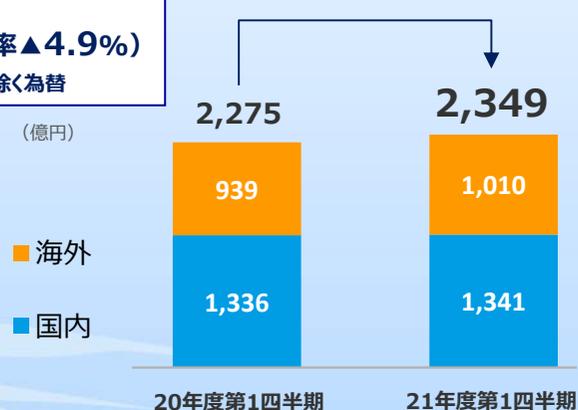
■ 正味収入保険料

増収率+**5.0%**
(通期予想増収率+2.2%)
※いずれも除く為替



■ 生命保険料

増収率+**2.2%**
(通期予想増収率▲4.9%)
※いずれも除く為替



【国内】

- 1Q実績は+3.7%と、基調は順調(通期予想は+0.0%)
- コロナ反動に加えて、火災や自動車における商品・料率改定効果等によるもの

【海外】

- 1Q実績は+7.7% (除く為替)と、基調は好調(通期予想は+6.0%)
- ロスコストを意識した、計画を上回る堅調なレートアップ等によるもの

【国内】

- 1Q実績は+0.4%と、基調は順調(通期予想は▲7.8%)
- 事業保険の解約の一方で、堅調な販売拡大等によるもの

【海外】

- 1Q実績は+4.8%(除く為替)と、基調は好調(通期予想は▲0.3%)
- TMHCCのMSL*1やDFGのLTD/STD*2が、計画を上回るレートアップや引受拡大等を実現しているもの

*1 メディカルストップロス保険 *2 長期/短期の就業不能補償保険

【ボトムライン（修正純利益）】

【連結全体(修正純利益)】 1,672億円(通期予想対比進捗率39.4%)

- 海外が計画を上回ったことに加え、国内生損保も堅調に推移し、1Qは計画を上回った

以下、各事業の事業別利益

【TMNF】 838億円(通期予想対比進捗率60.3%)

- 大口事故がなかったことや、自動車の損害率が良好であること等により、順調に推移

【AL】 105億円(通期予想対比進捗率21.9%)

- 海外クレジット運用の収益認識タイミング（2Q予定）を勘案すると、順調に推移

【海外保険】 582億円(通期予想対比進捗率34.9%)

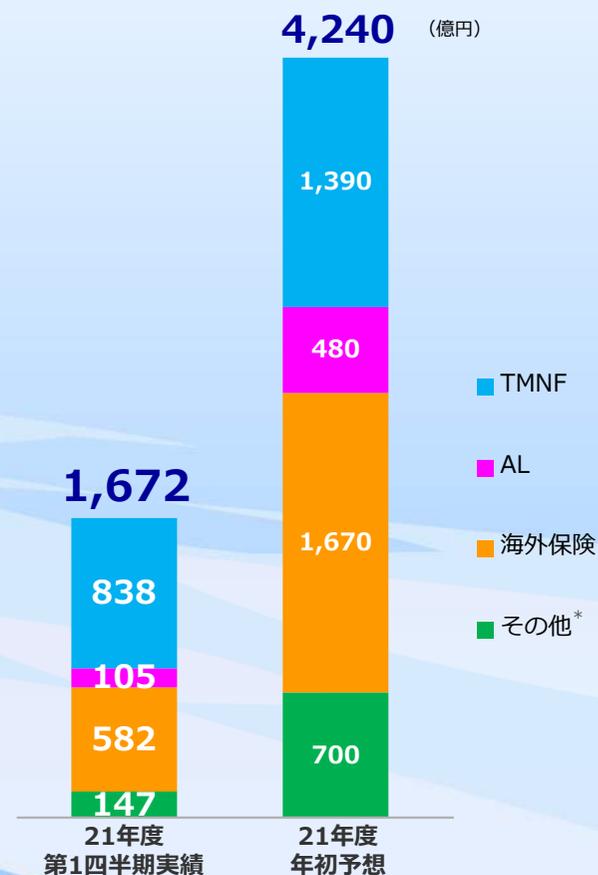
- テキサス州寒波の影響があったものの（自然災害は見込み対比▲73億円上回る）、それを除けば、保険引受も資産運用も好調であり、1Qは計画を大きく上回って進捗（海外の利益計画は、コロナの影響を強く受けていた前年末に策定しているもの）
- なお、北米主要拠点は1Q計画対比+約100億円であり、1Hでは更に上振れる見込み

通期予想対比進捗率

39.4%

※過去5年平均進捗率
(16Q1-20Q1・以降同様)

35.9%



*「その他」は、その他国内損保や金融その他事業、事業別利益に含まれない政策株式売却益など

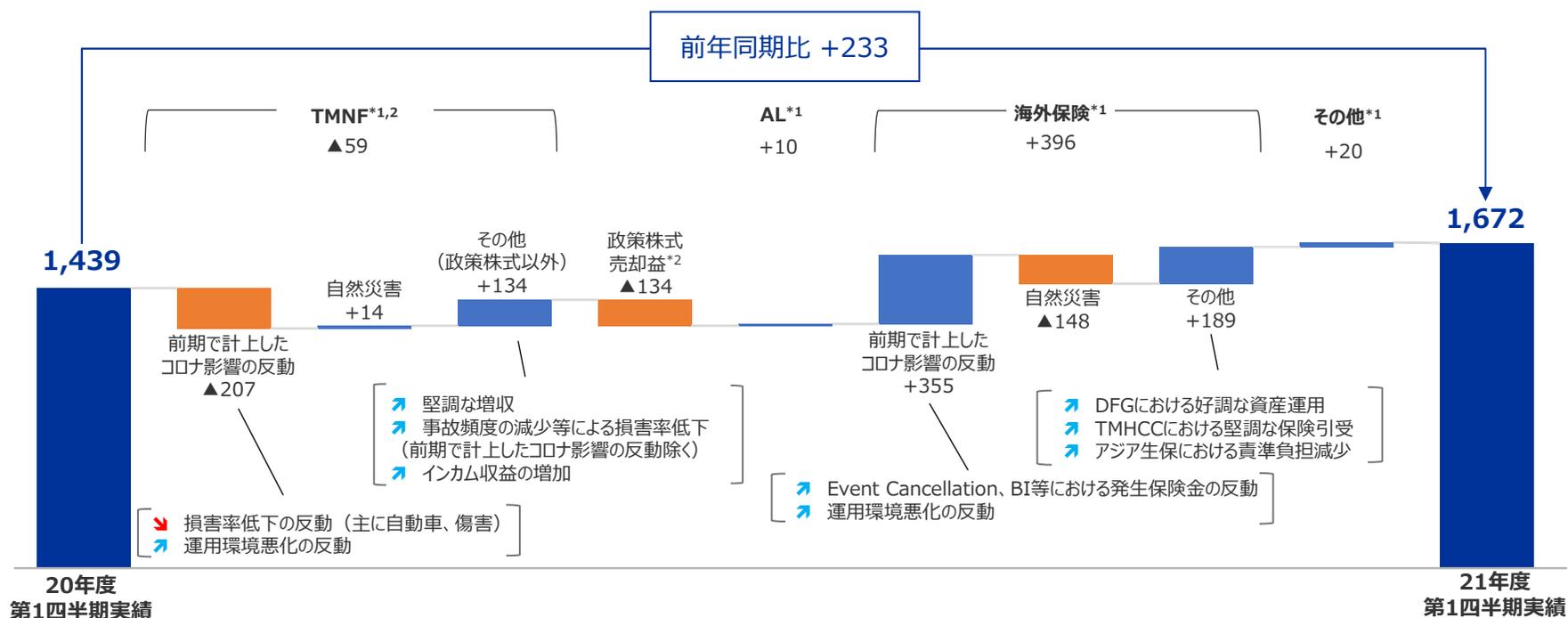
連結決算：修正純利益（前年増減）

連結決算	国内生保事業
国内損保事業	海外保険事業



修正純利益は、コロナ影響の反動に加え、TMNFにおける好調な保険引受や、海外における好調な資産運用等により、前年同期比+233億円の1,672億円となった

修正純利益（億円）



*1: 金額は各事業の事業別利益 (「その他」はその他国内損保や金融その他事業、連結調整など)

*2: 政策株式の売却益は、事業別利益には含まれないが、修正純利益には含まれる

自然災害の発生状況

自然災害に係る発生保険金は、テキサス州寒波の影響により前年同期比+166億円増加の217億円（税引前）

■ 自然災害に係る発生保険金（事業別利益ベース、億円）

税引前	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	前年 同期比*1	2021年度 通期予想
国内損保	29	8	▲20	740
海外保険	22	209*3	+187	520
合計	51	217	+166	1,260

税引後*2	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	前年 同期比*1	2021年度 通期予想
国内損保	20	6	▲14	533
海外保険	17	165	+148	400
合計	38	171	+133	933

*1 +は収益にマイナス、▲は収益にプラス

*2 税引後数値は概算

*3 テキサス州寒波の影響額（税引前）は、海外事業においては1Q時点で約190億円だが、TMNF経由で外部から回収予定の再保険金等（4-6月に計上済）をネットすると、グループ全体では約160億円となる。

国内損保事業①：決算概要 (TMNF)



- 1Q事業別利益は、大口事故が少なかったことや、自動車の損害率が良好であること等により、順調に推移 (1Q進捗率：21年度60.3% vs 過去5年平均42.9%)
- 前年同期比では、資産運用等損益は増益の一方、自動車の損害率上昇等、コロナ影響の反動による保険引受利益の減益により、全体では減益

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年増減	2021年度 通期予想	
				通期予想	進捗率
保険引受利益	746	926	179	1,090	85.0%
(保険引受利益：除く①~⑤)	1,018	721	▲296	1,923	37.5%
正味収入保険料 (民保)	5,097	5,379	281	20,411	
既経過保険料 (民保) *1	4,833	4,986	152	20,307	
発生保険金 (民保) *2	▲2,232	▲2,578	▲346	▲12,325	
①自然災害	▲29	▲8	20	▲700	
②外貨建支払備金積増/積減	10	2	▲8	-	
上記以外	▲2,214	▲2,572	▲358	▲11,625	
事業費 (民保)	▲1,598	▲1,684	▲86	▲6,759	
③異常危険準備金積増/積減	▲207	▲171	36	▲500	
自動車	▲88	▲90	▲1	▲32	
火災	▲75	▲34	40	▲327	
④自然災害責任準備金積増/積減	▲0	▲2	▲1	-	
⑤初年度収支残負担*3	▲45	384	429	366	
資産運用等損益	684	834	149	1,780	46.9%
経常利益	1,457	1,785	327	2,880	62.0%
特別損益	▲21	15	37	▲42	▲36.4%
四半期純利益	1,100	1,410	310	2,200	64.1%
事業別利益	898	838	▲59	1,390	60.3%

【通期予想に対する進捗】

- 各種準備金等の影響を控除した保険引受利益：
 - ➔ 堅調なトップライン (P.8参照) と想定内の発生保険金 (P.9参照) により、通期予想に対して順調に推移 (1Q進捗率：21年度37.5% vs 過去5年平均32.6%)
- 事業別利益：
 - ➔ 以下要因により、通期予想に対して順調に推移 (1Q進捗率：21年度60.3% vs 過去5年平均42.9%)
 - ➔ 商品・料率改定等による火災・自動車等の増収
 - ➔ 自動車・傷害におけるコロナ影響の反動や、火災における水濡れ・破損の増加等による損害率の上昇
 - ➔ 外貨建てファンドからの配当金の増加や金融派生商品損益の改善

【ご参考】準備金の前年同期比

- 異常危険準備金積増/積減：
 - ➔ 支払保険金の増加による火災の取崩増加
- 初年度収支残負担：
 - ➔ 前年同期のコロナ影響の反動による取崩増加

*1 自然災害責任準備金積増を除く

*2 損害調査費を含む

*3 普通責任準備金積増の内、未経過保険料の積増額を控除したもの

注) 上表における符号は、利益方向に一致するように表示

国内損保事業②：正味収入保険料（TMNF）

連結決算	国内生保事業
国内損保事業	海外保険事業



- 1Q実績は+5.5%と、基調は順調(通期予想は+0.9%)
コロナ反動に加えて、火災や自動車における商品・料率改定効果等によるもの
- 前年同期比では、同様の理由により、増収

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年		2021年度 通期予想	前年 増減率
			増減	増減率		
火災	745	850	105	14.1%	3,411	▲3.4%
海上	181	215	34	18.9%	631	2.9%
傷害	541	571	29	5.5%	1,728	7.1%
自動車	2,765	2,825	59	2.2%	11,161	1.0%
自賠償	609	550	▲59	▲9.8%	2,202	▲7.7%
その他	864	917	52	6.1%	3,483	2.1%
合計	5,709	5,931	222	3.9%	22,620	0.0%
内：民保合計	5,097	5,379	281	5.5%	20,411	0.9%

【通期予想に対する進捗】

- 火災：
 - 21年1月の料率改定効果や企業火災の大口契約、受再保険の増加等により、通期予想に対して順調に推移
- 海上：
 - コロナ影響（物流減等）の反動や営業施策の実行による増収等により、通期予想に対して順調に推移
- 傷害：
 - コロナ影響（外出自粛等）の反動により、通期予想に対して順調に推移
- 自動車：
 - 20年1月の商品・料率改定効果や21年4月の商品改定効果、契約台数の増加（+0.7%）等により、通期予想に対して順調に推移
- 自賠償：
 - 20年4月の料率引下げの影響等はあるものの、通期予想に対して順調に推移
- その他：
 - 賠償責任保険や動産総合保険における増収等により、通期予想に対して順調に推移

国内損保事業③：発生保険金（TMNF）

- 前年同期比では、自然災害が少なかったものの、コロナ影響の反動等により、増加
- 一方で、コロナ影響の反動は計画に織り込み済であることから、通期予想に対して想定内で推移

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績		2021年度 第1四半期 実績				2021年度 通期予想	
		自然 災害	自然 災害	前年 増減	前年 増減率		前年 増減率	
火災	266	21	342	8	75	28.5%	2,143	▲20.0%
海上	106	6	100	-	▲6	▲6.0%	424	12.1%
傷害	173	-	230	-	57	33.1%	946	10.4%
自動車	1,247	0	1,445	0	197	15.9%	6,809	13.8%
その他	438	0	460	0	21	4.9%	2,001	▲8.5%
合計	2,232	29	2,578	8	346	15.5%	12,325	2.0%

注) 上表には損害調査費を含む

【通期予想に対する進捗】

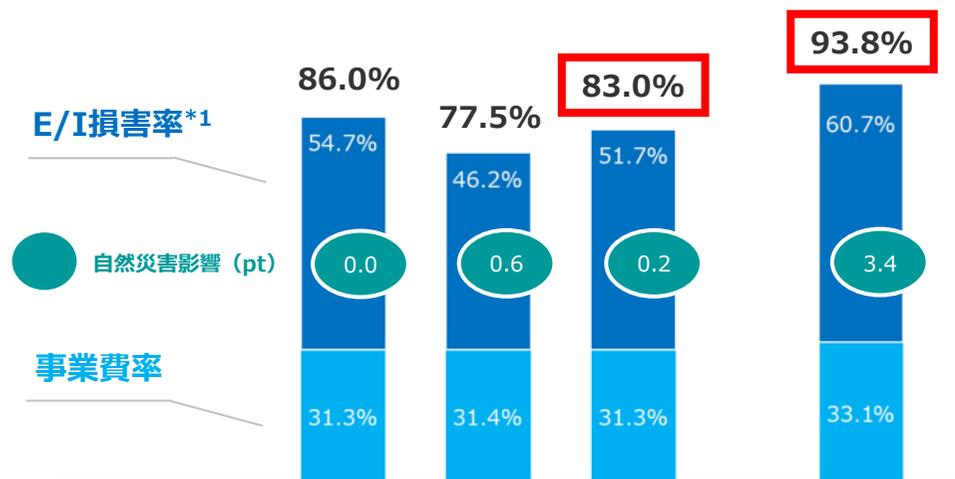
- 火災：
 - 家計火災における水濡れ・破損の増加や企業火災における小規模事故の増加等により、前年同期比では増加しているものの、通期予想に対しては想定内で推移
- 海上：
 - 自然災害がなかったこと等により、前年同期比では減少しているものの、通期予想に対しては想定内で推移
- 傷害：
 - コロナ影響の反動により、前年同期比では増加しているものの、通期予想に対しては想定内で推移
- 自動車：
 - ➡ コロナ影響の反動により、前年同期比では増加しているものの、安全運転技術の普及やコロナ影響による事故頻度の減少が想定を上回っていることから、通期予想を下回るペースで推移
- その他：
 - 海外での発生保険金の増加により、前年同期比では増加しているものの、通期予想に対しては想定内で推移

注) 上表には損害調査費を含む

国内損保事業④：コンバインド・レシオ（TMNF）

- E/I損害率、事業費率、コンバインド・レシオは、通期予想に対して順調に推移
- 前年同期比では、事業費率は横ばい、E/I損害率、コンバインド・レシオはコロナ影響の反動により上昇

コンバインド・レシオ（民保E/Iベース）



【通期予想に対する進捗】

- E/I損害率：
 - 既経過保険料の増加と想定内の発生保険金（P.9参照）により、通期予想に対して順調に推移（除く自然災害でも同様）
- 事業費率：
 - 社費率は、正味収入保険料の増加等により、通期予想に対して順調に推移
 - 手数料率は、代手率の低い海上・その他新種の増収等により、通期予想に対して順調に推移
- コンバインド・レシオ：
 - 通期予想に対して順調に推移

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期 実績	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年増減	2021年度 通期予想
正味収入保険料	5,039	5,097	5,379	281	20,411
既経過保険料*2	4,717	4,833	4,986	152	20,307
発生保険金*1	2,579	2,232	2,578	346	12,325
事業費	1,579	1,598	1,684	86	6,759
内：社費	566	539	563	23	2,477
内：代理店手数料	1,013	1,058	1,121	62	4,282

*1 損害調査費を含む
*2 自然災害責任準備金積増を除く

E/I損害率*1

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年増減	2021年度 通期予想
火災	37.0%	43.3%	6.3pt	63.7%
海上	67.6%	60.8%	▲ 6.8pt	67.1%
傷害	42.3%	58.5%	16.2pt	56.4%
自動車	46.2%	52.3%	6.1pt	61.1%
その他	51.7%	52.7%	1.0pt	57.5%
民保合計	46.2%	51.7%	5.5pt	60.7%

国内損保事業⑤：資産運用等損益（TMNF）

● ネット利息及び配当金収入、売却損益等計、資産運用等損益は、通期予想に対して順調に進捗

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年増減	2021年度 通期予想	進捗率
資産運用等損益	684	834	149	1,780	46.9%
資産運用損益	777	921	143	2,090	44.1%
ネット利息及び配当金収入	453	716	262	1,300	55.0%
利息及び配当金収入	544	797	252	1,624	
内国株式配当金	281	294	13	526	
外国株式配当金	168	337	168	589	
内国債券インカム	43	41	▲ 1	160	
外国債券インカム	6	5	▲ 0	21	
内国その他インカム*1	0	3	3	▲ 0	
外国その他インカム*2	14	84	70	235	
積立保険料等運用益振替	▲ 91	▲ 81	10	▲ 323	
売却損益等計（キャピタル）	324	205	▲ 119	789	26.0%
有価証券売却損益	395	230	▲ 165	809	
有価証券評価損	▲ 28	▲ 17	11	-	
内国株式評価損	▲ 9	▲ 17	▲ 8	-	
外国証券評価損	▲ 19	▲ 0	19	-	
金融派生商品損益	▲ 58	▲ 24	34	▲ 22	
為替差損益	13	11	▲ 2	-	
その他運用収益・費用	0	0	0	2	
その他	1	4	2	▲ 0	
その他経常収益・費用等	▲ 92	▲ 87	5	▲ 310	

* 1 内国証券のうち内国株式及び内国債券以外からのインカム

* 2 外国証券のうち外国株式及び外国債券以外からのインカム

注) 上表における符号は、利益方向に一致するように表示

【通期予想に対する進捗】

ー ネット利息及び配当金収入（インカム）

→ 通期予想に対して順調に進捗

前年同期比では、海外子会社からの配当金や外貨建てファンドからの配当金増加により、増加

ー 売却損益等計（キャピタル）

→ 通期予想に対して順調に進捗

前年同期比では、ヘッジコストの減少等による金融派生商品損益の改善の一方、政策株式売却益の減少により、減少

なお、政策株式売却額は260億円で、通期予想1,000億円に対して順調に進捗

前年同期比では、▲ 230億円となるが、売却タイミングの違いによるもの

国内生保事業：決算概要（AL）

- 新契約年換算保険料は、通期予想に対して順調に進捗。21.1Q増収率71.5%は、前年のコロナ影響からの回復を含んでおり、通期予想には織り込み済
- 事業別利益も、通期予想に対して順調に進捗

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	2021年度 通期予想	前年 増減率
新契約年換算保険料	66	113	47	71.5%	450	3.8%

	2021年 3月末実績	2021年 6月末実績	増減	増減率	2022年 3月末予想	前年 増減率
保有契約年換算保険料	8,199	8,151	▲47	▲0.6%	7,960	▲2.9%

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	2021年度 通期予想	進捗率
経常収益	2,401	2,331	▲70	9,230	
保険料等収入	1,985	1,968	▲16	8,080	
四半期純利益	84	101	16	470	21.5%
経常利益	119	124	5	570	
(-) キャピタル損益	▲22	▲7	15	▲30	
(-) 臨時損益	▲0	▲1	▲0	▲0	
基礎利益	142	132	▲9	600	
事業別利益	94	105	10	480	21.9%

【通期予想に対する進捗】

－ 新契約年換算保険料

→ 保障性商品や回払変額保険の販売が想定通りに推移しており、通期予想に対して順調に進捗

－ 事業別利益

→ 2Qと4Qにのみ計上される、Delphiへの運用委託に係る分配金を考慮すると、通期予想に対して順調に進捗
 （前年同期比では、前年からの販売回復に伴う事業費の増加を、保有契約の積み上がりによる利益貢献や為替ヘッジコストの減少で打ち返し、+10億円の増益）

海外保険事業①：正味収入保険料

連結決算	国内生保事業
国内損保事業	海外保険事業



- TMHCC・PHLYを中心に、計画を上回る増収を実現し、基調は好調
- 前年同期比では、上記に加えて、年初に計画した各事業における成長施策の実行（レートアップの取り込みや引受拡大等）により、+6.1%の増収

(単位：億円)

		2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績			(参考) 前年増減率 (除く為替*5)	2021年度 通期予想		
適用為替レート (ドル/円)		20年3月末 108.8円	21年3月末 110.7円	前年 増減	前年 増減率		21年3月末 110.7円	前年増減率 (除く為替*5)	
先進国	北米*1	2,907	3,210	302	10.4%	8.5%	12,350	5.3%	
	PHLY	824	866	41	5.1%	3.3%	3,650	1.4%	
	Delphi	809	841	31	3.9%	2.1%	3,110	4.0%	
	TMHCC	1,107	1,316	208	18.8%	16.8%	4,820	9.0%	
	欧州*2	274	301	27	9.9%	▲2.3%	1,420	▲0.2%	
新興国	中南米	272	274	2	0.9%	6.9%	1,130	8.4%	
	アジア・オセアニア*3	457	499	41	9.1%	1.2%	1,940	6.1%	
	中東・アフリカ	80	85	5	6.6%	▲9.9%	360	2.7%	
損保計*4		3,991	4,370	379	9.5%	6.3%	17,200	5.1%	
生保		234	258	24	10.3%	3.3%	950	▲2.5%	
合計		4,226	4,629	403	9.5%	6.1%	18,150	4.6%	

【通期予想に対する進捗】

- 北米（主要3社の詳細はP.17～19参照）
 - ➡ PHLY： 計画を上回るレートアップ（1Q実績+11.3%）と好調な新規契約により増収
収益性重視の引受を継続しているものの、通期予想を上回って推移
 - ➡ Delphi： 好調なLTD/STDを主因に、1Q計画対比では順調に推移
 - ➡ TMHCC： 好調なMSLや良好なレート環境下で計画を上回る増収を実現したことにより、
通期予想を上回って推移
なお、1Qにおける更新契約のレートアップ率は+15%（A&H・Surety・Creditを除く）
- 欧州
 - ➡ TMK： 収益安定化に向けた引受見直しや出再増加の一方、レートアップによる増収により、
1Q計画対比では概ね順調に推移
- アジア・オセアニア
 - ➡ タイ、シンガポール等でのコロナに伴う新車販売減少により、通期予想を下回って推移

*1 「北米」に記載の数値には、TMHCCの欧州事業を含む。TMKの北米事業は含まない
*2 「欧州」に記載の数値には、TMKの北米事業を含む。TMHCCの欧州事業は含まない
*3 「アジア・オセアニア」に記載の数値には、先進アジア・オセアニアを含む
*4 「損保計」に記載の数値には、生損保兼営の海外子会社で引き受けている生命保険事業の数値を一部含む
*5 円換算時の為替の影響を控除

海外保険事業の数値は、従来からIR資料などで開示している基準と合わせ、東京海上日動の在外支店や持分法適用会社、非連結会社なども合算した海外保険事業トータルの数値となっている
（上記全ての注記については、P.15も同様）

海外保険事業②：事業別利益

連結決算	国内生保事業
国内損保事業	海外保険事業



- テキサス州寒波により自然災害が見込みを上回った(▲73億円)ものの、それを除けば、保険引受も資産運用も好調であり、1Q計画を大幅に上回って進捗(1Q進捗率：21年度34.9% vs 過去5年平均23.8%)
- 北米主要拠点*の1Q実績は、計画対比+約100億円。1Hでは更に上振れる見込み
- 前年同期比では、上記に加えて、コロナ影響の反動(+約350億円、うち保険引受+約50億円、資産運用+約300億円)等により、+396億円の増益

* PHLY、Delphi、TMHCC、Pure

(単位：億円)

		2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替)	2021年度 通期予想	
適用為替レート (ドル/円)		20年3月末 108.8円	21年3月末 110.7円				21年3月末 110.7円	進捗率
先進国	北米	123	473	350	284.9%	277.2%	1,490	31.8%
	PHLY	72	74	2	3.1%	1.4%	380	19.7%
	Delphi	▲32	247	280	-	-	650	38.2%
	TMHCC	87	133	46	53.0%	50.4%	440	30.4%
	欧州	3	7	4	139.0%	228.9%	80	9.9%
新興国	中南米	19	19	▲0	▲1.4%	4.0%	60	32.7%
	アジア・オセアニア	42	90	47	112.5%	98.8%	140	64.3%
	中東・アフリカ	3	▲4	▲7	▲244.7%	▲217.2%	10	▲43.8%
損保計		211	565	353	167.0%	160.5%	1,730	32.7%
生保		1	50	48	2,673.3%	2,339.3%	▲50	▲101.6%
Pure		4	1	▲3	▲68.5%	▲69.0%	130	1.1%
合計		186	582	396	212.7%	203.6%	1,670	34.9%

【1Q計画対比のコメント】

– 北米（主要3社の詳細はP.17～19参照）

- ➡ PHLY： 過年度リザーブ取り崩しの一方、テキサス州寒波の影響により、計画を下回る進捗率
ただし、テキサス州寒波の影響を除けば、計画を上回る進捗率
- ➡ Delphi： コロナに伴う死亡事故増加により生保ビジネスの損害率が悪化（計画に織り込み済）した一方、
好調な資産運用により、計画を上回る進捗率
- ➡ TMHCC： レートアップにより収益性を高めながら増収し、計画を上回る進捗率

– 欧州

- ➡ 欧州： 金利上昇に伴う評価損およびテキサス州寒波の影響等により、計画を下回る進捗率
ただし、これらの影響を除けば、概ね順調に推移

– アジア・オセアニア

- ➡ アジアにおけるコロナに伴う自動車事故頻度の低下等により、計画を上回る進捗率

– 生保

- ➡ シンガポール、マレーシアの金利上昇に伴う責任準備金の減少の影響等により、計画を上回る進捗率
（通期予想では、シンガポール、タイにおける責任準備金積増等による減益（▲45億円、修正純利益ベースでは
▲約90億円）を想定していた）

– Pure

- ➡ テキサス州寒波の影響（※）により、計画を下回る進捗率だが、フィー収入については概ね順調に推移
（※）一部再保険を引受（4月以降ランオフ）

■ 主要勘定科目の増減

（単位：億円）

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	20年3月末 (ドル/円) 108.8円	21年3月末 110.7円			
正味収入保険料	824	866	41	5.1%	3.3%
既経過保険料	904	902	▲ 2	▲0.3%	▲1.9%
発生保険金	582	636	54	9.3%	7.5%
自然災害	12	125	112	925.7%	908.3%
手数料・社費	271	275	4	1.6%	▲0.1%
保険引受利益	51	▲ 9	▲ 60	-	-
資産運用損益	39	97	58	149.1%	144.9%
事業別利益	72	74	2	3.1%	1.4%
損害率*1	64.3%	70.5%	6.2pt	-	-
事業費率*1	30.0%	30.5%	0.5pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	94.3%	101.0%	6.7pt	-	-

*1 分母は既経過保険料

*2 円換算時の為替の影響を控除

<手数料・社費、保険引受利益、事業費率、コンバインド・レシオについて>

2021年度より、管理会計上の手数料・社費の計算方法を変更。これに伴い、2020年度の手数料・社費、保険引受利益、事業費率、コンバインド・レシオの実績も、新たな計算方法で再算出した。なお、本変更に伴うボトムラインの変更はない。

海外保険事業④：決算概要 (Delphi)

■ 主要勘定科目の増減

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	20年3月末	21年3月末			
適用為替レート (ドル/円)	108.8円	110.7円			
正味収入保険料	809	841	31	3.9%	2.1%
既経過保険料	716	756	39	5.5%	3.7%
発生保険金	500	557	56	11.4%	9.5%
自然災害	-	-	-	-	-
手数料・社費	199	214	14	7.4%	5.5%
保険引受利益	15	▲ 16	▲ 32	▲202.8%	▲201.1%
資産運用損益	▲ 22	489	511	-	-
事業別利益	▲ 32	247	280	-	-
損害率*1	69.9%	73.8%	3.9pt	-	-
事業費率*1	27.9%	28.4%	0.5pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	97.8%	102.1%	4.4pt	-	-

<資産運用損益の前年増減+511について>

左表の資産運用損益には、株価オプションにかかるヘッジ損益を含んでいる。その影響を控除した場合の前年増減は+371億円となる。

■ セグメント別正味収入保険料

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	20年3月末	21年3月末			
適用為替レート (ドル/円)	108.8円	110.7円			
損保	458	460	1	0.4%	▲1.3%
生保	350	380	29	8.5%	6.7%
合計	809	841	31	3.9%	2.1%

■ セグメント別損害率*1

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減
損保	72.4%	71.3%	▲1.0pt
生保	67.3%	76.1%	8.8pt
合計	69.9%	73.8%	3.9pt

*1 分母は既経過保険料

*2 円換算時の為替の影響を控除

■ 主要勘定科目の増減

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	20年3月末	21年3月末			
適用為替レート (ドル/円)	108.8円	110.7円			
正味収入保険料	1,107	1,316	208	18.8%	16.8%
既経過保険料	940	1,062	121	12.9%	11.0%
発生保険金	625	687	62	10.0%	8.1%
自然災害	2	18	15	529.1%	518.4%
手数料・社費	218	240	22	10.2%	8.3%
保険引受利益	67	94	27	40.3%	38.0%
資産運用損益	41	68	27	66.0%	63.2%
事業別利益	87	133	46	53.0%	50.4%
損害率*1	66.5%	64.8%	▲1.7pt	-	-
事業費率*1	23.2%	22.7%	▲0.5pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	89.7%	87.4%	▲2.3pt	-	-

■ セグメント別正味収入保険料

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	20年3月末	21年3月末			
適用為替レート (ドル/円)	108.8円	110.7円			
北米損保	341	378	36	10.8%	8.9%
傷害・医療	404	421	17	4.3%	2.5%
米国外	361	515	154	42.7%	40.3%
合計	1,107	1,316	208	18.8%	16.8%

■ セグメント別損害率*1

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減
北米損保	65.9%	61.3%	▲4.6pt
傷害・医療	78.9%	78.2%	▲0.7pt
米国外	46.9%	50.1%	3.2pt
合計	66.5%	64.8%	▲1.7pt

*1 分母は既経過保険料

*2 円換算時の為替の影響を控除



参考資料

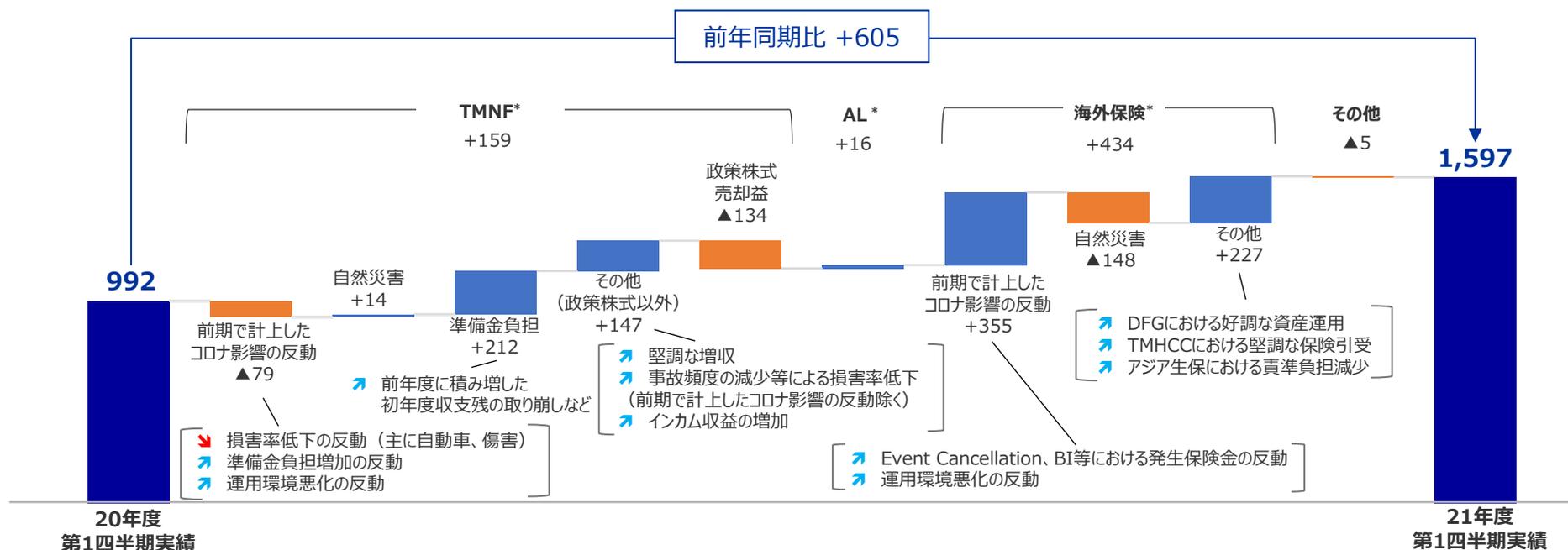
連結決算：連結純利益（前年増減）

連結決算	国内生保事業
国内損保事業	海外保険事業



連結純利益は、コロナ影響の反動に加え、TMNFにおける初年度収支残の取り崩しや好調な保険引受、海外における好調な資産運用等により、前年同期比+605億円の1,597億円となった

■ 連結純利益（億円）



* 連結調整を含む

修正純利益（グループ全体）

透明性および比較可能性の向上／株主還元との連鎖

- 市場から見た透明性や比較可能性の向上、株主還元との連鎖の確保を目的として、グループ全体では財務会計をベースとした「**修正純利益**」を使用
- 資本効率（修正ROE）や配当原資の前提となるグループ全体の利益指標
- なお、2021年度より、透明性や比較可能性の向上の観点から計算方法を一部変更している

事業別利益

長期的な企業価値拡大

- 各事業の利益指標は、経済価値等を考慮した企業価値を的確に把握し、長期的に拡大を目指す観点から、「**事業別利益**」を用いて経営管理を行う
- なお、2021年度より、生保事業について、当期純利益をベースとした指標に改定している

<主な違い>

		修正純利益	事業別利益
損害保険	政策株式売却損益	控除しない	控除
	資本性準備金繰入額	控除	控除
その他	のれん・その他無形固定資産償却費	控除	控除

各種指標の定義②



※透明性や比較可能性向上の観点から2021年度より定義を一部変更（黄色網掛け部分）

修正純利益・修正純資産・修正ROEの定義

$$\begin{aligned}
 \text{修正純利益}^{\ast 1} &= \text{連結当期純利益}^{\ast 2} + \text{異常危険準備金繰入額}^{\ast 3} + \text{危険準備金繰入額}^{\ast 3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{\ast 3} + \text{自然災害責任準備金}^{\ast 4} \text{ 繰入額}^{\ast 3} + \text{初年度収支残の影響額} \\
 &\quad - \text{ALM}^{\ast 5} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} + \text{のれんその他無形固定資産償却額} - \text{事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} - \text{その他特別損益評価性引当等} \\
 \text{修正純資産}^{\ast 1} &= \text{連結純資産} + \text{異常危険準備金} + \text{危険準備金} + \text{価格変動準備金} + \text{自然災害責任準備金}^{\ast 4} + \text{初年度収支残} \\
 \text{修正ROE} &= \frac{\text{修正純利益}}{\text{修正純資産（平均残高ベース）}}
 \end{aligned}$$

※1 各調整額は税引き後
 ※2 連結財務諸表上の「親会社株主に帰属する当期純利益」
 ※3 戻入の場合はマイナス
 ※4 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料
 ※5 ALM = 資産・負債総合管理。ALMの負債時価変動見合いとして除外
 ※6 海外生保は「その他の事業」の基準により算出

事業別利益の定義

● 損害保険事業

$$\text{事業別利益}^{\ast 1} = \text{当期純利益} + \text{異常危険準備金等繰入額}^{\ast 3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{\ast 3} + \text{自然災害責任準備金}^{\ast 4} \text{ 繰入額}^{\ast 3} + \text{初年度収支残の影響額}$$

● 生命保険事業 ^{※6}

$$\text{事業別利益}^{\ast 1} = \text{当期純利益} + \text{危険準備金等繰入額}^{\ast 3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{\ast 3} - \text{ALM}^{\ast 5} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} - \text{政策株式・事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} - \text{その他特別損益評価性引当等}$$

● その他の事業

財務会計上の当期純利益

$$- \text{ALM}^{\ast 5} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} - \text{政策株式・事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} - \text{その他特別損益評価性引当等}$$

実質純資産の定義

$$\text{実質純資産}^{\ast 1} = \text{連結純資産} + \text{異常危険準備金} + \text{危険準備金} + \text{価格変動準備金} - \text{のれんその他無形固定資産} - \text{株主還元予定額} + \text{生保保有契約価値} + \text{その他}$$

修正純利益の組替表（2021年度 第1四半期実績）

2021年度第1四半期の修正純利益は、前年同期比+233億円増益の1,672億円

組替表^{*1}

(注) 符号は利益方向にプラス表示

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	2021年度 予想	(億円)
親会社株主に帰属する当期純利益（連結）	992	1,597	605	3,150	
異常危険準備金繰入額 ^{*2}	+ 158	+ 121	▲37	+ 330	
危険準備金繰入額 ^{*2}	+ 2	+ 1	▲0	+ 0	
価格変動準備金繰入額 ^{*2}	+ 17	+ 18	0	+ 70	
自然災害責任準備金 ^{*3} 繰入額 ^{*2}	▲ 1	+ 1	2	▲ 0	
初年度収支残の影響額	+ 30	▲ 292	▲323	▲ 270	
ALM ^{*4} 債券・金利スワップ取引に 関する売却・評価損益	+ 4	+ 9	5	+ 10	
事業投資に係る株式・固定資産に 関する売却損益・評価損	+ 7	▲ 21	▲28	▲ 0	
のれん・その他無形固定資産償却額	+ 224	+ 237	13	+ 940	
その他特別損益・評価性引当等	+ 3	▲0	▲4	▲ 0	
修正純利益	1,439	1,672	233	4,240	

*1 各調整は税引き後

*2 戻入の場合はマイナス

*3 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料

*4 ALM = 資産・負債総合管理のこと。ALM負債時価変動見合いとして除外

事業別利益の組替表



● 国内損保事業*1（うちTMNF）

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	2021年度 通期予想
四半期純利益（財務会計）	1,100	1,410	310	2,200
異常危険準備金繰入額等*2	+151	+124	▲26	+366
価格変動準備金繰入額*2	+10	+11	0	+44
自然災害責任準備金*3繰入額*2	+0	+1	1	-
初年度収支残の影響額	+32	▲277	▲309	▲264
ALM*4債券・金利スワップ取引 に関する売却・評価損益	+1	+8	7	+7
政策株式・事業投資に係る株式・ 固定資産に関する売却・評価損益	▲272	▲165	106	▲594
グループ内配当金	▲167	▲326	▲158	▲528
その他特別損益 評価性引当等	+41	+51	10	+164
事業別利益	898	838	▲59	1,390

*1 各調整は税引き後

*2 戻入の場合はマイナス

*3 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料

*4 ALMとは資産・負債総合管理のこと、ALM負債時価変動見合いとして除外

*5 特別損益、本社費ほか

● 国内生保事業*1

（単位：億円）

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	2021年度 通期予想
四半期純利益（財務会計）	84	101	16	470
危険準備金等繰入額*2	+0	+0	+0	+3
価格変動準備金繰入額*2	+6	+2	▲4	+9
ALM*3債券・金利スワップ取引 に関する売却・評価損益	+3	+1	▲1	+5
政策株式・事業投資に係る株式・ 固定資産に関する売却・評価損益	+0	+0	▲0	+0
その他特別損益 評価性引当等	-	-	-	-
事業別利益	94	105	10	480

● 海外保険事業*1

	2020年度 第1四半期 実績	2021年度 第1四半期 実績	前年 増減	2021年度 通期予想
四半期純利益（財務会計）	117	559	442	1,840
少数株主持分の調整		▲9		
対象会社の差異		▲1		
その他調整*5		+33		
事業別利益	186	582	396	1,670

< ご注意 >

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。

従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

お問い合わせ先

東京海上ホールディングス株式会社

経営企画部 IRグループ

URL: www.tokiomarinehd.com/inquiry/ir.html

Tel: 03-3285-0350

To Be a *Good Company*



東京海上ホールディングス

